

# 小学校 特別活動 部会

部会長 伊方小学校 校長 井上 憲治  
実践者 市場小学校 教諭 大久保利詔

## 1 研究主題

学級活動（１）の指導と評価の一体化

～育ちの見とりと、指導に生かす「そのつど評価」～

## 2 主題設定の理由

児童が議題内容を話し合い、判断し、よりよい内容に決定するまでの一連の実践を行うようになるためには、話し合いの経験と判断の基準となる価値観をどのように育てるのが重要になる。それは、学級活動や日常の学級経営において、常に価値ある行為や活動の意義を取りあげて、そのつど言葉による評価（賞賛）を行うことで浸透していくものである。このような価値基準や意義の深さをおさえた指導を繰り返し行うことが重要になる。その繰り返しは、児童が議題内容を考え判断を行う際の価値基準になっていく。「この内容ではどうか」と議題を話し合い、決定する時、児童は、その内容がもつ価値や意義を発達段階（学年）に応じて吟味し、判断していくことになるからである。

また上述の内容は、児童の価値観と判断基準を育てていく上で、最も重要な要素になると考えたからである。

## 3 主題の意味

### （１）指導に生かす評価の一体化（見とりとそのつど評価）とは

学級会の中で、教師は助言を行うことが指導の中心になり、評価活動の主たる場面は、終末に行われる教師の話になる。ここで、児童の発言や態度を具体的に引き上げ、価値づけ、評価内容を児童に返すことが肝心である。また、発達段階や学級会の経験値に応じて、発言の仕方やリアクションの取り方、枕の付け方（つなぎことば）等を、機会を捉えて教師がそのつど引き上げ、価値づけた指導をすることも重要になる。評価の一体化とはこのような児童の発言、反応への見とりと価値づけを繰り返すことであり、その見とりとそのつど評価が、学級会での考え方や表現の仕方を深化させ、思考・判断・実践への確かな育ちを促すことになるのである。

## 4 研究の目標

学級会において指導と評価を一体化させるには、話し合い活動のオーソドックスなスタイルを毎週の学級会に定着させる必要があると同時に定期的に必ず実践する必要がある。特に、児童が「こんな学級にしたい」という願いをもち、みんなで話し合い、実践に移す学級活動において本研究を進めるにあたっては、正しい価値観に裏打ちされた学級経営と、学級内に支持的風土が醸成されていることが絶対条件である。そのような条件のもと、学級活動（１）における学級会での教師の指導と評価の一体化の在り方を究明する。

## 5 研究仮説

学級会での話し合いの進め方を計画委員会に指導し、基本的な話し合いのスタイルとし

て年間の学級活動の話合いで定期的実践し、話合いの各場面で、価値ある発言や行動をそのつど評価していけば、その話合いの経験の積み重ねが、学級内の諸問題に目を向けることができる児童を育て、学級会が、児童自らが諸問題を議題として取り上げる自発的な話合い活動へと発展するとともに児童が、自らの話合い経験を生かしたり、生活経験から考えたりして、自分自身の言葉で思いを伝える言語活動にも寄与するであろう

## 6 研究の計画

### (1) 【議題発見への関心・意欲を育てる】

児童は、まず自分たちの問題として、今、学級に何が足りないのか？何が必要なのか？ということをつらなければならない。しかし、子どもたちの議題発見力は、学級活動経験値の差によって、大きく違いが生じる。そのため、学級活動の基本を発達段階に応じて指導し、理解させなければならない。それと同時に児童の内面に、そのことに目を向け、何とかしなければという積極的な関心や意欲を喚起させなければならない。

### (2) 【関心・意欲の芽を育てる】

上述のような実践的な関心や意欲を喚起するためには、日頃から学級の諸問題を意識できるように意図的、積極的に児童へのアプローチを行い、児童の内面に関心・意欲の芽を育てなければならない。それと同時に、児童自らが議題を発見したと思えるような後支えやしかけ、そして教室環境も必要になる。これらの指導を心がけ、クラスの問題、私たちの問題としての議題が取り上げられた時、そのことを高く評価することで、議題発見への芽が育っていくのである。

### (3) 【解決の考え方】

学級会での話合いの先にあるものは、算数的な明確な答えではなく、友だちの思いや考え方を伝え合いながら生まれる学級みんなでつくりあげるひとつの《考え》なのである。学級会では、マイナス方向の意見だけを出し続けても何の解決にもならないこと。友だちの考えを肯定的に捉え、プラス思考でよりよいものを作りあげようとする姿勢。よりよい内容にレベルアップしようとする話合いのもちようが大切なのだという前提を理解させなければならない。そのことが結果的に折り合いをつけて話し合うことに繋がるのである。

### (4) 【決定のよりどころ】

学級みんなで決定していく場面で、よりどころとなるのは、学級みんなで作った学級目標であり、それに裏打ちされ、計画委員会でじっくりと話し合われた提案理由なのである。学級目標や提案理由に帰着して議題内容を吟味し、決定していこうと考え、判断する児童の態度は、朝の会や帰りの会の中で、常に学級目標を意識したためあて作りや振り返りを指導しておくことから醸成されるものである。

7 指導の実際【授業の実際（抜粋）】

第18回学級会

「今までにない最高の集会にするためのゲームを決めよう」から  
提案理由

四年生のタイトルマッチ（クラスマッチ）に向けてチームワークを大切にしたい  
集会を計画すれば、タイトルマッチに向けての気持ちがよりいっそう高まるし、  
心をひとつにできて、男女、関係なく仲間思いのクラスがもっと進化できるから。

□ アンケートで取り組みたいゲームを五つにしぼり、ゲームのもつ意義や価値を  
考えながら話し合いを進めた。

C 多数 教師 2 11	教師 1	C 多数 H 男 10 9	J 男 8	G K 男 7 6	R 男 5	C 多数 K 議長 4 3 2	司会者 1
<p>（前略） ムカデ競争で、いろいろな意見がたくさん出たんですが、ムカデ競争は決定してもいいですか？ はい では、ほかの意見を出してください 僕はドッジボールがいいと思います。そのわけは、学級目標にもあるけれど、男女、関係なくできたし・（つまる）パスをすれば提案理由にもあるように（つまる）忘れたので・（座る） K君はきつと、ドッジボールの集会をした時に、学級目標にもあるように男女、関係なく女子も男子もパスをつなげていったから、ドッジボールがいいと、それが言いたかったんだと思います。K君君そうですよ？ そうです。ありがとうございます。 僕は、ドッジを推薦します。男の子も女の子もパスしあって、楽しく絆が強められると思うからです。 僕もドッジに賛成です。この前、集会をした時にS君は男子にも女子にもどっちにもパスをして優しくかったから、みんながそんな心をもてたらもっといい学級になれると思うからです。 そうです。それがいいと思います。 ほくは、ドッジには賛成なんですけど、みんなと意義が少し違って、（意見を認めたい）みんなが言っていた絆とかチームワークもいいと思うんだけど、もしサッカーをしたら、女の子がルールをよく知らなくて、あとで文句を言われたりするから、ドッジがいいと思います。 サッカーと比較して意見が出ただけで、サッカーとドッジを比べて考えてみたらどう？（子ども達から考えを拾う） 提案理由の中から・意義とか・・・ そうそう、どんな意義があるのかな？ そう考えて話せばいいんじゃない？</p>							

提案 議長 1918	C 多数 議長 171615	C 多数 S 子 14	S 男 13	R 男 12
<p>ほくもH君と同じで、もしサッカーをやると、男の子がめっちゃくちや気合いが入って女の子のことを忘れてしまつて、これは、チームワークを大切にするんだから、サッカーはちよつと・（ダメだと言いたい）のだけれどダメというこ とばを使いたくない） ・・サッカーよりもドッジの方がほくはいいと思います。 R君と同じで、チームワークを大切に提案理由にもあるし、男子はサッカーは負けてけんかになったり、男子がサッカーに夢中になりすぎて女子にパスをしなかつたり一人でシュートを決めに行ったりするから、サッカーとドッジを比べたらドッジの方がいいと思います。 さらに、友だちの意見につなぎ、提案理由のチームワークに帰着して比較したドッジ賛成意見が続く。 サッカーだと男の子がつい夢中になつて勝つことばかりになつて、自分のことだけしか考えないけれど、ドッジをこの前やった時は、男の子と女の子がチームワークを大切にして自分のことばかりじゃなくて、男の子も女の子にパスが渡るように心がけていたから、ドッジボールの方がいいと思います。 私もいいと思います。私もです。 僕もそうだと思います。賛成です。 賛成意見がたくさん出ていますので、J君で最後の発言にしたいと思います。（言いたいことがあると挙手している） どうしても言いたいことがある人は、J君の後に言ってください。</p>				



提案者 H子 25	S 子 24	A 男 23	提案者 I子 22	提案者 H子 21	J 男 20
<p>僕もS子さんの意見に賛成です。この前のドッジの時はみんなにパスが渡るように心がけてやっていたからドッジだと最後はみんなが笑顔で終われたんだけど、サッカーはみんなが笑顔じゃなかったからドッジに決めたいと思います。</p> <p>三年生の時のサッカーの集会をやった時に、なんかちよっと失敗しちゃったんだけど、四年生になって上学年になったから、進化しているかもじゃないから、それを含めて提案理由ができていますから、そのことを意識していったら、男子も女子にパスを渡してくれるんじゃないかと思えます。</p> <p>今さっきまでは、みんな文句とか女子のことを忘れてしまうからドッジがいいとか言っていたけれど、そういうのじゃなくなって、そこで思いやりとか仲間思いとか進化させていくことができるし、ドッジだけじゃなくってほかのことも進化させたいから、私はサッカーは、やった方がいいと思います。</p> <p>提案者二名の発言で、話し合いの方向がガラリと変わった。</p>					

C 多数	教師 2	ノ 書 記 33	C 議 長 32	C 議 長 31	C 議 長 30	提 案 者 H 子 28	副 議 長 N 子 27	R 男 26
<p>（物理的な時間を考えて） SさんやHさんの言うように、ドッジからサッカーの方がいいと思います。</p> <p>（物理的な時間を考えて） サッカーは時間がかかるから、そこは集会係さん、どうですか？</p> <p>私は、昼休みに集会が計画できないなら、週に一度だけある木曜日の学級活動の私たちの時間を使えばいいと思います。あーそれがいいね。</p> <p>では、この集会ではムカデ競争と大なわを決定します。別の時間をとってサッカーをしましょう。それでいいですか？いいです。</p> <p>それでは、今日決まったことを黒板記録のAさんお願いします。</p> <p>みなさん、今までにない最高の集会を目指して、心をひとつにして、男女、関係なく肩を組めるようないい集会にしましょう。</p> <p>今日みんなが、めあてをしつかり意識して話し合ったことがよかったですね。枕をつけて喋ろうとか、比べて考えるとか、それから、経験からも発言できたよね。それに、ドッジに決まりそうな時に、「進化」の意味を説明されて、まだ出ていないサッカーに挑戦することに決めたよね。これがすごかった。より価値のある内容に決めたこと今日の学級会は、すばらしい学級会だったと思います。Cありがとうございます。</p> <p>（中略） 後略</p>								

## 8 研究のまとめ

### (1) 【実践と振り返り】

この学級会の後、タイトルマッチに向けて一時間の集会を行い、昼休みにもミニ集会で練習を繰り返した。大縄跳びでは大幅に記録更新をし、サッカーはパスを意識したゲームへと進化した。タイトルマッチでは「全員ムカデ競争」でチャンピオンベルトを獲得するに留まったが、児童はタイトルマッチに向けて、心をひとつにして練習できたことを振り返る集会を開き、男女で肩を組み記念写真を撮って、4年生の学級を締めくくった。

## (2) 【特に評価した内容】

特筆されるのは、サッカーと比較して、ドッジボールに 99% 決定するかに思われた話合いが、提案者H子とI子の『進化』がもつ意味の発言をきっかけにドッジボールから180度変わってサッカーに決定されたところであろう。ここでは多くの賛成意見に対して、自分の考えをはっきりと主張でき、それを受容する支持的風土が見える。また、よりよい学級を築こうと、さらに価値が高いものを求めて話し合う姿勢と、安易な折り合いをつけない姿も見てとれる。本学級会では、特に提案理由で使った『進化』という言葉の意味を説明した提案者H子発言 21 とそれに付け加え『進化』を価値づけた提案者I子発言 22 を高く評価したことはもちろんだが、そこに価値を見だし、さらに意義深い決定を行った児童を大いに評価し価値づけた。

## (3) 【発言内容の分類】

発言内容を分類すると、様々な観点からの育ちを見とることができる。教師が、これらを見とり評価する目を肥やすことで、児童の育ちは大きく変化する。そのことを念頭に置いて見とり、そのつど評価し、指導に生かすことが重要である。

### ① 関心・意欲・態度

- ・話合いを前に進める = 9,15,16,29

### ② 思考・判断・実践

- ・友達の考え結びつけて判断する = 8,12,13,14,20,25
- ・友達の意見から価値のある考えに変える = 23,24
- ・友だちの思いを押し量り大切に作る = 19,23
- ・経験を生かして納得させようとする = 14,21
- ・プラス方向で話合いを進める = 12,15,16,25
- ・提案理由に帰着して考える = 13,33
- ・意義や価値に着目して考える = 10,20,21,22,25
- ・よりよい学級を目指す = 5,8,20,21,22
- ・女子のことを心配し解決を図る = 10,13,14

### ③ 知識・理解

- ・学級活動への理解 = 8,28,29
- ・多数決に頼らない決定の仕方 = 1,17
- ・枕（つなぎ言葉）をつけて話す = 10,12,13,18
- ・学級会で使わせたい言葉 = 7,12

## 9 成果と今後の課題

本学級会では四年生なりに価値や意義を考えながらよりよい学級生活をつくろうと話し合う児童の育ちを数多く見とることができた。これは今までの学級会で、発言内容や考え方を見とり、そのつど評価し、児童に価値づけて返しながら育ててきた思考・判断・実践の育ちそのものであろう。指導に生かす評価とは評定を行うことではない。今後も児童の育ちを見とり、後支えしながらさらに高みへと誘う評価活動を展開しながらよりよい学級づくりを目指していきたいと考えている。